

「青年海外協力隊」

小川 順子 さん

OGAWA Junko

看護師の経験を生かして
子どもたちを健康に

「うちの子、ウンチと一緒にこんな長い虫が出てきたのよ」と、笑いながら30センチほどの幅を手で示すお母さん。虫とは、カイチュウなどの寄生虫のこと。ここパラグアイの南東部・ピラポ市の貧困家庭では珍しいことではない。彼らの家は土の地面に柱を立て、その先にトタンの屋根をかぶせただけ。体を洗おうにも小川の水を使うこともある。簡易的なトイレはあるが、子どものほとんどが草むらで済ませてしまう。「寄生虫病になって不思議ではない。みんなこれが当たり前の環境だと思っていて、問題意識がないのです」。同市で青年海外協力隊員として活動する看護師の小川順子さんが言う。

PROFILE

1981年千葉県出身。大学卒業後、2004年に聖路加国際病院 救命救急センターなどで看護師として勤務。09年長崎大学熱帯医学研究所熱帯医学研修課程で寄生虫疾患やデング熱を含む熱帯医学、国際保健について学ぶ。2010年3月より、青年海外協力隊(公衆衛生)としてパラグアイで活動中。

JICA Volunteer Story

「健康第一。衛生・栄養・性教育の正しい知識を知ってほしい」

パラグアイの南東部ピラポ市に住む貧困層の生活向上を目指し、5人の青年海外協力隊員がチームで活動している。その一人、看護師の小川順子さんは、衛生、栄養、性教育における住民の意識改善に取り組んでいる。

高校時代、『青年海外協力隊員になるには』という本を読み、いつか自分も参加したいと考えていた小川さん。大学で看護学科へ進もうと決めたのも、専門知識を持つ看護師なら国際協力の現場で役に立てると考えたからだ。看護師になってからは、休暇を利用してスタディーツアーでカンボジアやフィリピンを訪れたことも。そこで知ったのは、衛生環境が悪く、緑色の鼻水をすすったり、皮膚病にかかった子どもたちがいるという現実。はだして服も体も泥まみれ、口の中は虫歯だらけという状況だった。「自分でできることはないか」と国際協力への関心をさらに深めていった小川さんは、職場の先輩が協力隊に参加したことに後押しされて応募。そして2010年3月、公衆衛生分野の隊員としてパラグアイのピラポ市役所に赴任した。

隊員同士で連携し 相乗効果を高めたい

パラグアイ最大の日本人移住地であるピラポ市では、大豆や小麦など大規模農業を営む富裕層と、小農や日雇い労働者として働く貧困層との間で、教育、経済、生活面で格差が広がっている。そこでピラポ市は、貧困家庭の生活改善と所得向上を図り、バランスのとれた市の発展を目指すため、09年から「ピラポ市総合コミュニティ開発事業」を実施中。そしてこの事業のサポートに、プログラムオフィサー、野菜栽培、家政、小学校教諭、小川さんが担当する公衆衛生という5職種の青年海外協力隊員がチームで取り組んでいる。隊員が各自の専門性を生かして共に活動する画期的な支援形態だ。

その中で小川さんの役割は、衛生・栄養・性教育の3分野で改善を図ること。まずは市役所の職員とともに5つの貧困地区を1世帯ずつ訪問し、実態把握に努めている。すると、寄生虫疾患や肥満の人々が多く、また性教育・家族計画も行われていないことが分かってきた。「強く感じたのは、こうした状況を人々が問題だと思っていない



a. 子どもたちを飽きさせないように講座の内容や教材を工夫。発泡スチロールなどで作った大きな歯の模型を使い、歯の磨き方を教える小川さん
b. 婦人会での栄養講座では、たんぱく質が多い食品、炭水化物・油脂が多い食品、野菜・果物ごとに色分けした教材を使い、食事の栄養バランスを考えてもらう
c. 隊員同士の連携は大きな強み。小学校教諭の轟隊員(右)が活動している先住民族の小学校で講座を行う小川さん
d. 貧困家庭では地面の上でじかに生活している場合も多い。子どものころからこの環境で育ち、問題だと感じていない住民たちの意識を変えるのは容易ではない



「トイレはどこするのが正しい?」。塗り絵を完成させた子どもたち。地域の人たちにも見てもらえるよう、学校、公民館、保健所などに掲示している



ということ」。そこで小川さんは、彼らの意識改善を目指して学校や婦人会などで講座を開くことに。例えば、公衆衛生の講座では、寄生虫は健康を害するだけでなく、命にかかわるものもあるため、衛生的な生活の重要性を説明。栄養面では食事の栄養バランスや肥満が引き起こす病気などについて、また性教育では、性感染症患者の増加や12〜13歳での若年妊娠が多い現状を踏まえ、家族計画(避妊)や性感染症予防について教えている。ある日のこと。「どれが衛生的に良くて、どれが悪いか、色を塗りながら覚えましょう」。小川さんの元気な声が教室に響き渡る。ここは小学校教諭の轟隊員が活動中の学校。手を洗う、つめを切る、靴やサンダルをはく、トイレを使う、就寝環境を整える、歯みがきをする…。日々の衛生習慣が描かれたお手製の塗り絵を子どもたちに配り、楽しみながら勉強してもらおう講座だ。「ここでは轟隊員が指導を継続してくれるので効果は上がっています」。ほかにも、プログラムオフィサーの栗林伸昭隊員が設立した各地区の婦人会や、野菜栽培の竹淵加菜子隊員が学校菜園に取り組む小中学校、家政の相川麻衣子隊員による料理講習会などで、栄養や性教育の講座も行い、全隊員で連携して人々の生活改善をサポートしている。

「正しい知識を学んだ子どもたちが家庭でそれを実践することで、子どもから家庭へ、そして家庭からコミュニティへと広がってほしい」。小川さんたちは今後もチーム派遣の強みを最大限発揮し、各隊員の専門性を結集して、貧困層の生活改善を目指していく。

青年海外協力隊・シニア海外ボランティア募集!

全国約120会場で
体験談&説明会を開催

募集期間

10月1日(土)~11月7日(月)



www.jica.go.jp/volunteer/